

## 訪問教育の始業式が行われました

4月9日(水)午前10時より当院の会議室にて、日高養護学校の訪問教育の始業式が行われました。始業式の後は、参加した児童やその保護者で歌やゲームを楽しみました。

訪問教育とは、病気の治療のために長期入院が必要となり、これまで在籍していた小・中学校に通学することが困難な児童を対象として、県立の養護学校の先生方が定期的に病院に訪問して授業を行う制度です。4月現在、当院では4名の児童が日高養護学校の先生方により週3回、1回あたり2時間の授業を受けています。子どもたちは入院中でも教育の場があることで、治療をしながらもその年齢に適した学びや分かる喜びを味わうことができます。日高養護学校の訪問教育の先生方のご尽力に深く感謝申し上げます。



## 3月29日埼玉医科大学30周年記念講堂において「臨床医学生認定式(白衣授与式)」が行われました

病院長 松谷 雅生

医学部学生が医師として巣立っていくための必須の課程が病室での臨床実習です。この課程に入るためには、4年間にわたり学んだ医学的な知識と問題解決能力に加えて、医師に必接な態度と診察技能を評価する共用試験と呼ばれる全国の医科大学・大学医学部の学生を対象に行われる評価試験に合格しなければなりません。学生にとってそれまで集積してきた知識と医師としての資質を評価された後に初めて許される病室での実習です。学生は緊張と興奮に包まれ、医師としての義務と責任を身をもって自覚する重要な実習です。

埼玉医科大学医学部は、この学生にとっての重要な瞬間を以後の医師生活の中での原点として脳裏に刻んでもらうために、平成19年より「臨床医学生認定式(白衣授与式)」を行っております。理事長・学長からの訓辞に加え、本年度は聖路加国際病院理事長であり名誉院長である日野原重明先生が、97歳の高齢とは思えない若々しく、かつ熱情あふれる講演がありました。そして、医療人の心得として、病人だ人への慈愛が中心にあり、優しさ、清楚、寡黙、明るさ、気が利くこと、同情、の7要素が必須であることを教えてくださいました。その後、学生ひとりひとりに臨床実習に用いるユニフォーム(白衣)を授与して式典を終了いたしました。

病院にいらっしゃる皆様には、院内でひとときわ若々しく、袖に埼玉医科大学のエンブレム(右図)をつけた実習

医学生を目にすることもあると存じます。温かい目で彼らを育てて下さるようお願いいたします。



■臨床医学生による宣誓

